

<認知症対応型共同生活介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4673300077
法人名	有限会社 あおぞら
事業所名	グループホーム あおぞら
訪問調査日	平成 21 年 6 月 18 日
評価確定日	平成 21 年 7 月 31 日
評価機関名	特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年6月22日

【評価実施概要】

事業所番号	4673300077
法人名	有限会社 あおぞら
事業所名	グループホーム あおぞら
所在地	鹿児島県日置市日吉町日置478番地 (電話) 099-292-2034

評価機関名	特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会		
所在地	鹿児島県鹿児島市城山一丁目16番7号		
訪問調査日	平成21年6月18日	評価確定日	平成 21年 7月 31日

【情報提供票より】(平成21年5月30日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 7 月 15 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	20 人	常勤 6 人, 非常勤 14 人, 常勤換算	15.8 人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	1 階建ての	階 ~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	21,000 円	その他の経費(月額)	12,600 円 (水道光熱費他)
敷金	有() 円 <input type="radio"/> 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() 円 <input type="radio"/> 無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,000 円		

(4) 利用者の概要(5 月 30 日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	7 名	要介護2	8 名		
要介護3	2 名	要介護4	1 名		
要介護5	名		要支援2	名	
年齢	平均 84.7 歳	最低	69 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	日置市民病院
---------	--------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは日吉町の中心部にあり、日置市支所や小学校、中学校、病院が近くにあり生活しやすい環境である。ホームの広い敷地には色とりどりの花や芝生が植えられ、隣接の200坪の畑にはピーマン・かぼちゃ・ナス・芋などの野菜が植えてある。利用者は庭を散歩したり、野菜の収穫をしたり、ベンチでゆっくりしたり、自然を楽しめるよう工夫している。管理者と職員は利用者が明るく健康で、地域の中で安心して自分らしい生活を送れるようにと具体的な介護理念三原則を作り実践に向け取り組みをしている。建物内は広く明るい造りで、いたるところに花を飾り穏やかな雰囲気のあるホームである。

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前年度外部評価の改善点は4項目あり運営推進会議の場で報告するとともに改善に取り組んでいる。①評価の意義の理解と活用②市町村との連携③重度化や終末期に向けた方針の共有の3項目についての改善を要する内容については改善されているが④災害対策については、災害の具体的な対策の取り組みについて今年度も引き続き改善課題が残る。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者は自発的なケアの向上を促す効果を狙い、自己評価は各ユニットごと責任者が中心となり職員全員で項目にそって具体的な話し合いをしながらまとめている。管理者とホーム長は各ユニットの資料をもとに作成をしている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>行政、地域代表(公民館長、民生委員)、家族代表などの出席によりおおむね2ヶ月に1回の開催をしている。会議で意見交換を積み重ねることで相互の理解が深まりホームは地域の協力が得やすくなると共に地域に対してホームの機能の特性を活かした協力もできるようになり会議の効果を上げている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>年2回の家族会の開催・意見箱の設置・運営推進会議・家族の訪問時など意見や相談を聴く機会と捉え些細なことでも申し送りノートに記入し共有している。職員で対応を話し合う場合は相談ノートを使い家族の意見を運営に反映できるようにしている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会に加入し、運動会・十五夜・清掃活動など地域行事に参加している。ホームの火災訓練には地域住民に参加してもらったり、地域の一人暮らしの高齢者に台風時の避難受け入れやホーム行事に参加の呼びかけをしている。小・中学生の学習の場として受け入れをし、その後の交流につながるなど地域の一員として年々交流が深まっている。</p>

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設当初の理念を基に、地域密着型サービスへの移行後は状況にふさわしい言葉を添えて事業所独自の理念を作っている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日の朝礼時、理念の唱和を行い職員に理念の意識付けを行っている。玄関、フロア、事務所等に理念を掲げ日々のサービス提供場面においても理念を意識できるよう図っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、運動会や十五夜、清掃活動など地域行事に参加している。地域の住民がホームの消防訓練に参加したり、中学生や小学生が学習に訪れ、その後の交流につながるなど地域の一員として年々交流が深まっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前年度の外部評価についての改善点は4項目あり改善に向け取り組みをしているが、1項目は今後の継続課題となる。自己評価については自発的なケアの向上を促す効果をねらい各ユニットごと全職員が参加し進行係の職員を中心に具体的な話し合いを行い、管理者とホーム長が作成している。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行政、地域代表(公民館長、民生委員)、家族代表等の出席により、おおむね2ヶ月に1回の開催が行われている。会議で意見交換を積み重ねることで相互の理解が深まりホームは地域の協力を得られるようになると共に、地域に対してホームの機能の特性を活かした協力をし、会議の効果を上げている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議を通じ市の窓口には足が運びやすくなり、栄養士の問題、金銭預かりの扱い方、確認の依頼、生保申請等行政と連携しながらサービスの向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族への報告は主に家族の来所時に行われており、利用者の様子を伝えたり金銭出納帳の確認をしてもらっている。遠方の家族には写真や金銭出納帳のコピー等手紙で報告している。健康状況については電話で個別に報告されている。	○	定期的なたよりの発行によりホームの行事や暮らしの様子、職員の異動など家族がより安心できる報告をされることを望みます。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年2回の家族会や意見箱の設置、運営推進会議、家族の訪問時等意見や相談を聴く機会と捉え、些細なことでも申し送りノートに記入している。職員で対応を話し合う場合は相談ノートも使い家族の意見を運営に反映できるようにしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者は職員の異動が利用者に与えるダメージを理解し、職員には家庭的な雰囲気や接し、食事会など設け悩みを抱え込まないよう配慮し離職者を最小限に抑えるよう努力している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は行政関係やグループホーム連絡協議会など外部研修に職員が参加できるよう積極的に配慮している。ホーム内では毎月のミーティングで外部研修の伝達や3ヶ月毎栄養士を迎えての勉強を行い、食中毒やインフルエンザなど季節的な問題に関しては内部研修をしている。	○	職員研修は場当たりの研修にならないように外部研修、内部研修の年間計画を立て、計画に沿った研修を行い職員の質の向上を図っていただきたい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	南さつま半島グループホーム連絡協議会に加入し、全職員は交替で参加し同業者との交流の機会を得ている。また地域のグループホームからの見学を受け入れ、活動を通じて質の向上につなげている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に本人、家族と見学をしてもらい納得の上で入居してもらうようにしている。入居してから不安になった場合は職員は寄り添うように心がけたり、家族に面会や外出の同伴をお願いするなど協力を貰いながら馴染めるよう努力している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は日々の生活の中で畑仕事では農業経験の知恵をもらい、食事作りでは山菜の下ごしらえの昔からの知恵をもらい、料理に携わっていた人からは味付けや分量を教わり、教育に携わっていた人から子育ての話聞くなど場面に応じて長年の経験の知恵をもらい支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に本人や家族から思いや意向についてアセスメントを行っている。入居後職員は利用者の会話や動作で意向をくみ取るよう努めミーティングで気づきを話し合い、全員が共有できるよう申し送りノートへ記録している。		
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族の思いや意向を基に医師の照会を含め、管理者、計画作成担当者、介護職員が集まり意見を出し合いながら介護計画を作成している。	○	介護計画作成にあたり担当者会議には本人、ご家族も話し合いに参加させ利用者本位な介護計画が作成されるよう望みます。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画についての3ヶ月に1回評価を行い、達成状況を確認している。介護計画の期間に応じて3~6ヶ月ごとに見直しを行っている。期間前であっても状況に変化が生じた場合には現状に即した新たな介護計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	平成21年2月までは医療連携体制の指定を受けていたが看護師の確保ができず現在は準看護師が健康管理の対応をしている。本人や家族の要望に応じて通院介助や入院中の早期退院に向けた話し合い、地域在宅一人暮らし高齢者の台風避難場所提供など機能を活かし柔軟な支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人の希望するかかりつけ医での受診支援を行い、事業所はかかりつけ医と情報交換しながら適切な医療が受けられるよう支援している。月1～2回の定期検診は変化があった場合のみ家族へ情報伝達を行い、それ以外の受診時は必ず電話連絡を行い家族と情報を共有している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	事業所は重度化や終末期に向けた対応についての方針を作り、利用者や家族にも説明を行っている。重度化した場合や終末期のあり方について本人やご家族の意思の確認を行い、対応についても職員と話し合っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報について職員には雇用契約時に説明し守秘義務の徹底を図っている。毎日の理念の唱和と共に介護理念の3原則(叱らない・怒らない・せかせかと仕事をしない)の唱和を行い利用者へ接する態度の意識付けをし、ケア中で気がついたことを話し合いながらプライバシーの確保に努めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の暮らし方は一人ひとりのペースを把握しており、本人の希望にそうように、畑仕事が好きなお人とはホームの畑と一緒に出かけ、料理の好きな人には下ごしらえや味付けをもらい、買い物に行きたい人、習い事に出かける人など希望にそった支援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と利用者はホームの菜園で収穫した野菜を話題にしながら一緒に下ごしらえをし食事の準備をしている。盛り付けやいりどりで食欲が出る工夫をこらし、職員は同じものを一緒に食べながら食材や味、煮加減を話しかけ楽しい食事ができるよう配慮している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	月～金は入浴の準備がしてあり、週3回は入浴できる体制である。男性には先に入浴してもらい、女性の入浴順は希望に応じて柔軟に支援している。入浴拒否の人には気分良く入浴できるよう声かけの工夫をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日常生活の中で食事作り、後片付け、針仕事、洗濯たたみ、モップや雑巾がけ、畑作業と利用者の能力や得意な分野で役割をしてもらい張り合いになるよう支援が行われている。弁当を作って運動公園や海を見に出かけたり、外食や習い事に出かけたり楽しみや気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	晴れた日は広々とした庭で、職員と利用者は常時洗濯干しや取り込み作業をし、軒下の燕の観賞、草取り、花つみ、散歩と戸外に出ている。庭のフェンスの外には200坪のホームの菜園があり、きゅうりの支柱を作ったり、ナスやピーマンの収穫を楽しんでいる。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	全ての職員は居室や日中玄関に鍵をかける事の弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。職員は出かけた人を把握し注意を払っている。ホームの庭は広くフェンスがあり2か所の門にも鍵はかけていない。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防署立会いの避難訓練を行っている。災害に備え自動通報装置の設置や連絡網の作成をし、地域の人々へ訓練参加の呼びかけを行い協力を得ている。	○	災害に備えては年2回の火災訓練だけでなく、あらゆる状況の災害を想定し、対応できるようマニュアルを作成し定期的に研修すると共に、災害時に必要とする水・食料その他の最低必需品の確保も望みます。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分摂取は毎日記録し、定期的な体重測定と見合せながら健康管理に努めている。3ヶ月に1回栄養士を招いてメニュー表、食べる量、栄養のバランス、盛り付け方、いづれ等食事についての勉強会をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂・居間は建物の中心で天窓から明かりをとり、防災カーテンで直接日光を受けないよう工夫がしてある。窓も多く自然の風を取り入れたり、隣接の畑の花や野菜が眺められ季節を感じることができる。畳の間やソファのコーナー、玄関先のベンチで思い思いに過ごせる工夫がしてある。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室のベッドやタンスはホームの備え付けが殆どであるが、自宅から使い慣れたベットやタンスを持ち込み使用している人もいる。本人が暮らしやすい部屋になるよう使い慣れた品物や大切な写真、自作品など持ち込みくつろげるよう工夫されている。		